

．．．． 雑魚寝した夏の日を．．．．

(教育・昭和42年卒・大前 正昭)

『また、三年後に会いましょう。それまでお元気に．．．．．。』

2017年3月19日。3年に一度 催される 《ミニ香川大学同窓会》(昭和43年卒)の後輩たちからかけられた言葉である。

この会は、今回で3回目である。(前回2014年)しかし、私にとっては、大変思い出の詰まった会である。

私は、昭和42年に卒業した。香川県では、教員として採用されず大阪府に行った。4月1日から2泊3日の初任者研修を高野山で受け、教員としての第一歩を堺市に記し、歩み始めた。

赴任した錦綾小学校は、市内で一番小規模な学校だった。(各学年2クラス)

休みの日には、自転車でザビエル公園、中百舌鳥陵(仁徳御陵)、将棋の坂田三吉の生家等名所旧跡を訪ねた。また、包丁・自転車のハンドル・ペダル・サドル等を作る町工場の見学もさせてもらった。大阪市との境界を流れる大和川へ先輩の理科担任の安藤先生と植物採集にもよく出かけた。

その一学期の終了前に、大浦さん(1年後輩 社会科学研究室)より一枚の“はがき”が届いた。

「大阪府の教員採用試験を、天王寺中学校で受けます。5名の者が、参りますので泊めてください。」

という内容だった。物品監査があたっていたので、香川に帰省もできない。

即座に了解の葉書を書いて投函した。

私は歴史研究室に在籍していた。隣の社会科学研究室の人とは、授業の合間や昼休みに卓球をしたり、中庭でバレーボールをしたりしてよく交流して遊んでいたのも、非常に懐かしく感じ、逢いたかった。

私の住居は、長屋づくりのアパートで4畳半。(月給は、3万円弱。家賃は、5千5百円。)その夜、ありったけの布団と座布団を敷き、私を入れた6人で寝た。熟睡できたのか、全員合格した。

以後、なかまたちは、自分の思いを貫き、愛知県・神奈川県・大阪府・香川県と就職先は、異なった。しかし、いろいろな道を歩んできた6人が、50年ぶりに会って、時間を忘れて語り合った。